

2020年7月22日

株式会社三菱 UFJ 銀行

米国 Ripcord 社のロボット・AI 技術を基盤とする電子化サービスを活用した 事務効率化に向けた取り組みについて

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 ^{みけ} ^{かおつぐ} 三毛 兼承、以下 当行）は、今般、印鑑票^①をはじめとする当行内で保管されている紙書類を電子化することを目的に、米国スタートアップ企業 Ripcord, Inc.（以下 Ripcord 社）が開発するロボット・AI 技術を基盤としたサービス（以下 本サービス）を導入することを決定しました。今後、本サービスを活用して、高速かつ高精度での紙書類の電子化を実現することで、場所による制約を受けないロケーションフリーの業務環境を確立し、お客さまの利便性向上と業務の効率化を目指してまいります。

1. 背景

当行は、デジタルイゼーションを中期経営計画における最重要施策の一つとして位置付け、IT の活用によるお取引における利便性の追求と、社内の業務プロセスの自動化による生産性および効率性の向上に取り組んでおります。

その中で、銀行取引の多くは、申込書や契約書等の紙書類を用いたものであり、お取引の内容や事情に応じ、書類に記載されている内容や筆跡などを確認する必要がある場合には個別に確認することを前提として、多くの紙書類を遠隔地に所在する倉庫に保管しています。

そのため、当行では IT の活用により紙書類を電子化することで、紙書類を前提とせず、場所の制約を受けないロケーションフリーの業務環境の確立を目指しています。

2. 印鑑票の電子化について

当行では、3 億頁以上の紙の印鑑票（関連書類含む）を倉庫に保管しており、個別に印鑑票の内容の確認を行う際に、専用端末で参照可能な内容や場所が限られているため、お取引内容によって、お客さまに確認のためにお待ち頂くことを含め、様々な非効率が生じています。

今後、ロケーションフリーの業務環境の実現への取り組みを加速させるため、ロボット、ソフトウェアおよび AI 技術を組み合わせることで、紙のサイズに応じた分類やホッチキスの取り外しを含む、作業の大半を自動かつ高速で処理し、多くの人手と時間をかけずに紙書類を電子化することを可能にする Ripcord 社のサービスを活用し、2021 年より、保管する印鑑票の全てを電子化してまいります。

これにより、当行従業員は、関連書類を含め、電子化された全ての印鑑票の画像を、場所による制約を受けずに各自の業務用端末から即時に確認できるようになり、店舗での待ち時間が短縮されるなどお客さまの利便性向上に寄与するのみならず、業務の効率化が実現されます。

今後も、対象となる紙書類を広げることをはじめとして、デジタル化の取り組みを更に加速させてまいります。

3. Ripcord 社について

Ripcord 社は、ロボット、ソフトウェアおよび AI の活用を通じてレコード・マネジメント、Robotic Process Automation (RPA)、Managed Print Services (MPS) および Electronic Content Management (ECM) 分野に関する 620 億米ドル規模の市場に変革をもたらしている企業です。Ripcord 社のロボットは紙媒体の記録をスキャン、インデックス化、カテゴリ化するすることで、それらをクラウド内で検索可能にするとともに、既存の企業 IT システムに統合できるようにしています。また、Ripcord 社のクラウドベースのコンテンツサービスプラットフォームである Canopy は、企業に対し、電子化された書類の管理や検索、そして、既存の業務プロセスとのシームレスな統合を可能にします。Ripcord 社の詳細については、www.ripcord.com をご参照ください。

《Ripcord 社のロボット》



^[1] 印鑑票は、お客さまのお届出印影、口座番号、氏名および住所等の情報を記載したお客さまのお取引において基本となる書類の 1 つです。本人確認等、銀行における取引や事務で使用されます。

以 上